

令和元年度パネル展(会期：令和元年9月18日(水)～12月15日(日))

## 福岡鉄道遺産ものがたり 7

— 筑後地区編 —

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

## 1 鉄道遺産と筑後地区の路線

福岡県では、明治22年(1889)に最初の鉄道が開通して以降、多くの鉄道が敷設されました。これら鉄道に関する施設には、戦前から大切に受け継がれているものもあり「鉄道遺産」と呼ぶことができます。福岡県には多くの鉄道遺産が残されており、鹿児島本線や三池の炭鉱鉄道では、トンネルや橋梁、標識から架線柱に至るまで、多様な鉄道遺産を見ることができます。

本展ではこうした福岡県の鉄道遺産の中から、久留米を中心とする筑後地区の鉄道遺産を紹介します。筑後地区には、現在も運行を続ける久大本線きゅうだいのに加え、かつてはさまざまな民営鉄道や軌道、旧国鉄線などが縦横無尽に敷設されていました。これらの路線は、乗客とともに多くの産物も運び、地域の発展を支えました。今回は、こうした地域の発展を支えた路線の鉄道遺産を紹介します。

ちなみに鉄道と軌道の違いですが、鉄道は専用の敷地にレールを敷いて列車を走らせる路線、軌道は道路上にレールを敷設する路線です(一部例外有)。

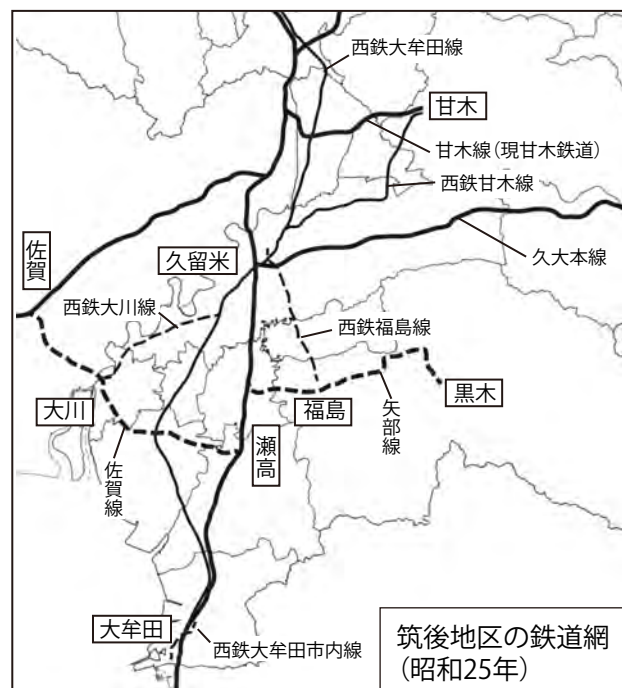


## 2 筑後地区の鉄道網の変遷

筑後地区の最初の鉄道は鹿児島本線で、福岡県内は明治24年に全通していました。明治40年頃からは、この鹿児島本線から分岐する形で、小規模な軌道や鉄道が敷設されていきます。主な路線には、水運が盛んな筑後川に平行する筑後軌道、久留米と海運の要衝である若津(現大川市)を結んだ大川鉄道などがありました。また筑後軌道や三井電気軌道(現西鉄甘木線など)は、電車を動かすために必要な発電事業も行い、一時は地域の電力供給も支えました。

昭和に入るところから、筑後地区には国有鉄道の久大本線や佐賀線、現在の西鉄天神大牟田線が敷設されていきます。これらの路線は福岡市や他県に至る遠距離輸送も担う一方、地域輸送の新たな担い手にもなりました。入れ替わるように、従来の小規模な軌道や鉄道は役割を終え、徐々に廃止されていきました。

その後、国鉄改革で昭和60年代には佐賀線と矢部線が廃止され、平成23年(2011)には九州新幹線が全通して、筑後地区は現在の路線網に至っています。



※太線：国有鉄道 細線：民営鉄道・軌道 実線：現存線 点線：廃線(貨物線および筑後軌道の久留米市内線の一部は省略)

### 3 駅舎・橋梁

それでは、筑後地区の鉄道遺産を、種類別に見ていきましょう。まず駅舎と橋梁から紹介します。

久留米市から日田を経て大分に至る久大本線は、昭和初期に開業しました。この久大本線の駅の中で、南久留米駅や善導寺駅は、建物の一部のみですが、昭和初期の木造駅舎が現在も活用されています。またうきは市で筑後川を渡る筑後川橋梁も、開業時から使用されている橋梁です。

鹿児島本線瀬高駅からはかつて、長崎本線佐賀駅に至る旧国鉄佐賀線が敷設されていました。それまで敷設されていた柳河軌道やなかわなどに代わって鹿児島本線と柳川市や大川市を結び、鹿児島本線と長崎本線を短絡する役割も担った路線です。昭和10年に全通し、昭和62年に廃止されました。この路線が筑後川を渡るために架けられた旧筑後川橋梁しゅうかいかいきょう(国指定重要文化財)は、別名筑後川昇開橋とも呼ばれています。当時盛んであった筑後川の水運を妨げないため、橋の下を船舶が航行する際は、橋桁の一部を上を持ち上げる可動橋となっており、中央の鉄塔に挟まれた橋桁を、ワイヤーで持ち上げる構造でした。佐賀線廃止後も可動橋としての機能は維持され、現在も橋桁が上下する姿を見ることができます。

また瀬高駅(戦前は矢部川駅)からは、熊本県の南関方面に向かう東肥鉄道(後に九州肥筑鉄道と改称)も分岐していました。大正11年(1922)に全通し、昭和13年に廃止された短命の鉄道でしたが、みやま市内には、かつてこの鉄道が走ったレンガ造りのアーチ橋が残っています。



筑後川昇開橋



長野トンネル



西鉄200形204号電車



大川鉄道5号蒸気機関車

### 4 トンネル・保存車両

次に、トンネルと保存車両を紹介します。久留米市の三瀨小学校前には、かつて大川鉄道を走った5号機関車が保存されています。この機関車は車輪の幅はJR在来線などと同じですが、大川鉄道の線路規格に合わせて、車体は小型に作られていました。なお、5号ではなく4号機関車であるという説もあります。

筑後市の羽犬塚駅から現在の八女市には、戦前は南筑軌道、戦後は旧国鉄矢部線が分岐していました。旧国鉄矢部線は昭和15年から工事が始まっていましたが、戦争の影響で遅れ、昭和20年の終戦直後に開通しています。その間、掘削されたものの、まだ列車が走っていなかった長野トンネルや北河内トンネルは、陸軍の物資保管庫として使われ、軍服や軍靴、食糧が収められたことから、鉄道遺産とともに戦争遺跡であるともいえます。また矢部線の終点である黒木駅の跡には、かつて矢部線を走ったC11型蒸気機関車が保存されています。

このほか、大牟田駅の西口には西鉄の路面電車の車両も保存されています。200形と呼ばれるこの車両は、まず西鉄の大牟田市内線で用いられ、同線廃止後は久留米と八女を結んだ西鉄福島線も走るなど、筑後地区と縁の深い車両といえます。

(学芸調査室 渡部邦昭)

#### 本展紹介の鉄道遺産の一覧

	名称	所在地	建造(開業)
1	旧筑後軌道今川橋の橋脚	うきは市	明治後期～大正初期
2	久大本線南久留米駅	久留米市	昭和3年
3	久大本線善導寺駅	久留米市	昭和3年
4	久大本線筑後吉井駅	うきは市	昭和3年
5	久大本線うきは駅	うきは市	昭和6年
6	久大本線筑後川橋梁	うきは市	昭和7年頃
7	D51 923蒸気機関車	久留米市	昭和18年
8	大川鉄道線路跡	久留米市	—
9	大川鉄道5号機関車	久留米市	明治44年
10	筑後福島駅跡	八女市	昭和20年
11	長野トンネル	八女市	昭和20年
12	旧国鉄矢部線の距離標	八女市	昭和期
13	北河内トンネル	八女市	昭和20年
14	C11 61蒸気機関車	八女市	昭和10年
15	旧国鉄佐賀線の駅跡	柳川市 大川市	昭和6年 ～31年
16	筑後若津駅跡	大川市	昭和13年
17	旧筑後川橋梁(筑後川昇開橋)	大川市	昭和10年
18	東肥鉄道のレンガ橋梁	みやま市	大正11年
19	48696蒸気機関車	大牟田市	大正11年
20	西鉄200形204号電車	大牟田市	昭和18年



編集 発行: 令和元年9月18日

九州歴史資料館  
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3  
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834  
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>